

Les temps croisés vol.2

レ・トン・クロワゼ 第2回公演



Artwork: Tomoro Kawai

～神本 真理 プロデュース～

神本 真理とフレデリック・デュリュエーの作品を集めて

2013年11月1日[金] 18:30開場 / 19:00開演
東京オペラシティ・リサイタルホール

一般: 3000円 / 学生: 2000円(全席自由席)

チケットお問い合わせ

オカムラ&カンパニー

Tel: 03-6804-7490 / E-mail: info@okamura-co.com

東京オペラシティ・チケットセンター

Tel: 03-5353-9999(10:00-18:00 定休日:毎週月曜日、8月第1日曜日)

プログラム

神本 真理

- ・ ajour (Alto Sax, Pf) [2010]
- ・ 樹に語る (Vc. solo) [2010]
- ・ 夢の灯 (Fl, Cl, Vla, Gt.) [2012]
- ・ ゆれる瞳 (Vln, Vla, Vc.) [2013]
- ・ 刻印 (Sop, Cl, Pf.) [2013(新作)]

フレデリック・デュリュエー

- ・ Echapée (Pf. solo) [2011-2012]
- ・ ÜBERSICHT II (Tenor Sax. solo) [2010]

Les temps croisés vol.2

レ・トン・クロワゼ 第2回公演

コンサートによせて…

フランス語で《交錯する時間》と名付けられた本公演は、作曲家・神本真理のプロデュースによる公演として、2009年に第一回を開催している。(於:兵庫県立芸術文化センター・小ホール)今回は、第一回から約4年の充電期間を経て行われるものである。第一回では、神本と同世代の作曲家で、神本がパリ留学中に知り合った仲間たちの作品を紹介する、という趣旨のもと、ディアナ・ロタル(ルーマニア在住)とセヴァスティアン・リヴァス(フランス在住)の二人の作曲家を取り上げた。今回の第二回公演では、神本のフランスでの恩師にあたるフレデリック・デュリユーの最近作を交えながらプログラミングされている。詩的な音空間を描く神本の音楽と、緻密で透明感あふれるデュリユーの音楽とが、どのように会場に響くことだろうか…。どうぞお楽しみに!

Players

多久 潤一郎 (Flute)	甲斐 史子 (Violin)
鈴木 生子 (Clarinet)	般若 佳子 (Viola)
井上 麻子 (Saxophone)	松本 卓以 (Violoncello)
太田 真紀 (Soprano)	大須賀 かおり (Piano)
松尾 俊介 (Guitar)	

東京オペラシティ・リサイタルホール

京王新線「初台駅」東口徒歩1分

(京王線相互乗り入れ都営新宿線にて新宿から2分)

プロフィール

神本 真理 Mari Kamimoto

1975年神戸生まれ。幼少時に大里安子氏に師事。2001年東京藝術大学・大学院修了後、2002年渡仏。パリ国立高等音楽院・作曲科、アナリーゼ科、およびオーケストレーション科を修了。文化庁派遣芸術家在外研修員(2005-2006年)。在仏中、Cité de la musique, Centre Acanthe, Royaumont等で作品が演奏される。2007年に帰国した後は、東京を拠点に国内外で活動を展開している。これまでに作曲を野田暉行、フレデリック・デュリユー、故・廣瀬量平、故・平吉毅洲の各氏に、また、電子音楽をルイス・ナオン、アナリーゼをミカエル・レヴィナス、オーケストレーションをドニ・コーエンの各氏に師事。1999年日本交響楽振興財団第21回作曲賞・最上位入選、日本財団奨励賞受賞。2002年現音作曲新人賞に入選。作品は、東京フィルハーモニー交響楽団、いずみシンフォニエッタ大阪、Ensemble InterContemporainなどの団体、また、優れたソリストたちによって国内外で演奏されている。2009年、自身のプロデュース公演《Les temps croisés ~神本真理と仲間たち~》(LTC)を開催。2013年にはフランスで、2014年にはオーストリアで新作が初演される。現在、国立音楽大学、東京藝術大学、桐朋学園大学、各非常勤講師。21世紀音楽の会、日仏現代音楽協会、日本作曲家協議会、各会員。

神本真理 オフィシャル・ウェブサイト

<http://www.marikamimoto.com>

Frédéric Durieux

フレデリック・デュリユー

1959年パリ生まれ。パリ国立高等音楽院に学び、アナリーゼ科(1984年)、作曲科(1986年)の各々において一等賞を受賞。その後、ピエール・ブーレーズに招かれ、IRCAM(音響および音楽の探求と共同のための研究所)に於いて、レジデント・コンポーザーとなる。(1985-1986年)。さらに、イタリア・ローマでのメディチ荘における在ローマ・フランス・アカデミーに派遣される(1987-1989年)。1990年には、パリ国立高等音楽院・アナリーゼ科の教授となり、2001年より同音楽院の作曲科・主任教授となる。1984年以降、アンサンブル・アンテルコンタンポラン(EIC)によりデュリユー氏の作品が度々取り上げられるようになる。EICの他、イティネレー、アルテルナンス、ミュルティラテラル等の室内アンサンブルの諸団体や、フランス放送フィルハーモニー管弦楽団、イタリアのRAI国営オーケストラなど、欧州のみならず、日本(東京シンフォニエッタ)、韓国、アメリカ、南米諸国、カナダといった様々な国において、氏の作品が初演/再演されている。また、ペーター・エトヴェシュ、ピエール・ブーレーズ、フランク・オル、といった指揮者たちや、クロード・ドゥラングル(サクソフォン)、アンドレ・トゥルツェ(クラリネット)、野平一郎(ピアノ)など多数の優れた演奏家たちとのコラボレーションにより、作品が生み出されている。2005年、モナコ公室財団賞を受賞(受賞作品:オーケストラのための《横断》)。また、これにより、同年、フランス芸術文化勲章・オフィシエを受賞。デュリユー氏の作品は、2005年以降の作品はイタリアのRAI TRADE社、また、1983-2003年の作品はフランスのJOBERT社により出版されている。

フレデリック・デュリユー オフィシャル・ウェブサイト

<http://www.fredericdurieux.com/>

